



美人画の巨匠

伊東深水展

「娘道成寺を踊る吾妻徳穂」昭和四十年

11月5日(金)～11月28日(日)

開館／午前9時～午後5時(展示室入室は午後4時30分まで) 初日は午前10時開展
毎週金曜日は午後7時まで開館(展示室入室は午後6時30分まで) 月曜日休館

高松市美術館 高松市紺屋町10-4 TEL(0878)23-1711

入場料／一般800円 高大生500円 小中生300円 (一般前売および団体20名様以上は2割引)

主催／高松市美術館・読売新聞大阪本社・西日本放送 後援／文化庁

伊東深水展

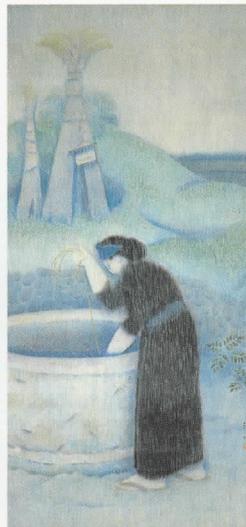
伊東一は明治31年(1898)東京深川に生まれました。絵を描くことが好きなこの少年は明治44年(1911)鏑木清方に入門し、本格的な絵画活動を始めます。師である鏑木清方は、この少年に彼が深川生まれであることから「深」、自分の号、清方の清の字の偏(サンズイ)から「水」をとり「深水」という号を期待を持って授けました。深水の豊かな画才はすぐに開花し、清方入門の翌年明治45年(1912)には15才で文展への登竜門といわれていた異画会にも早くも初入選、大正3年(1914)には再興第1回院展に初入選、大正4年(1915)には第9回文展にも初入選します。その後の順調な彼の画業はよく知られるところで帝展、日展の審査員、理事、日本芸術院会員などを歴任し、まさに日本画界の重鎮でありました。深水は惜しくも昭和47年(1972)7月に亡くなり、今年で没後約20年になります。この機会に彼の大きな画業を振り返ろうとするのがこの展覧会の目的です。15才の時に描いた「恵比寿大黒」、大正日本画の傑作とされる「指」(1922)「湯気」(1924)、晩年の大作「菊を活ける勅使河原霞女史」(1966)、今回特別に出品される「花嫁衣装」(1967)など深水の十代の作品から、最晩年に至るまでの作品70余点を展示いたします。この展覧会は深水芸術にふれる絶好の機会になると思います。



「吉野太夫」昭和41年



「朝顔と少女」昭和23年



「大島の黎明」大正5年



「指」大正11年



「鏑木清方先生像」昭和26年



「花嫁衣装」昭和42年

■記念講演会

「伊東深水展にちなんで」

講師/平野 重光氏(京都市美術館学芸課長)
11月14日(日)
午後1時30分から
高松市美術館1階講堂
入場無料 先着200名様

■催し物のお知らせ

第4期常設展

現代の美術・旅と記憶/かがわの工芸・定型をこえて

11月6日(出)~'94年1月16日(日)

■今後の展覧会

瀬戸内海絵画・写真展 12月10日(金)~12月19日(日)

讃岐漆芸の美 平成6年1月21日(金)~2月13日(日)